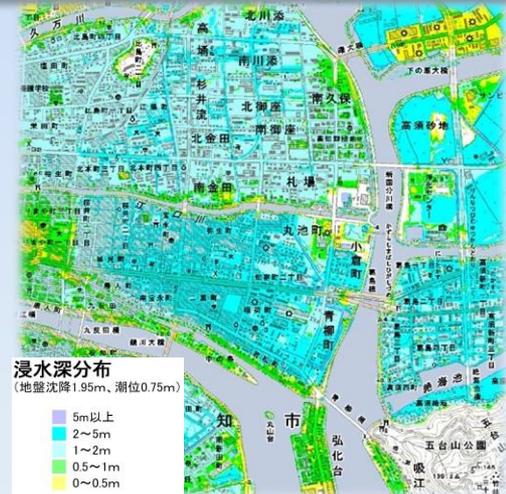


高知市下知地区の概要



- ・高知市の中心部に位置(約2.5km×1.5km)
- ・人口 約16,000人(高齢化率20%)
- ・商業施設、工場、倉庫、住宅等が混在した市街地

- ・地区の標高は0~2m
- ・昭和南海地震で浸水被害
- ・南海トラフ地震:震度7、浸水深3~5m
- ・地盤沈降により長期間浸水が継続
- ・避難場所は、ビルだけ
- ・地震と津波により大きな被害が想定



下知地区の取組と事前復興計画の必要性

下知地区減災連絡会：自主防など16団体が加盟

●主な活動内容

- ・防災講演会・セミナー
- ・津波避難行動計画、津波避難マップの作成
- ・防災訓練(避難、炊出し、情報伝達、避難所開設)
- ・昭和小学校防災学習との連携・協力
- ・防災世帯調査
- ・疎開を前提とした他地域との交流
- ・マンションの防災力強化

●防災上の課題

- ・高齢化、担い手不足
- ・津波避難ビルの不足と偏在
- ・要配慮者への支援
- ・長期浸水による孤立化
- ・被災後の人口流出



- ✓ 必ず来る津波、必ず来る復興
- ✓ 被災後に、まちづくりを考える余裕はない(合意形成に時間がかかる)
- ✓ 復興が遅れると、若い人が街から出てゆき、地域が衰退
- ✓ あらかじめ被災後の街づくりを考えておく、事前復興計画が必要

下知地区防災計画の策定(1)

- 第1回検討会(都市復興を考える)
 - ・平成27年9月
 - ・被災後の街づくりについて(都市復興)
- 第2回検討会(生活復興を考える)
 - ・平成27年11月
 - ・高齢者、稼働世代、子どもの課題
- 第3回検討会(復興のコンセプトを考える)
 - ・平成27年12月
 - ・事前復興のコンセプトについて
- 第4回検討会(幸せになる物語を考える)
 - ・平成28年1月
 - ・コンセプトを達成するための幸せになる物語



復興を早く進めるためには地域住民の合意形成が鍵。合意形成の手法に習熟するため、まずは多くの関係者でワークショップを実施。参加者が自由に意見を言いながら、集合知を紡ぐことにより、議論が活発化し、前向きな提案が出た。



下知地区防災計画の策定(2)

復興計画のコンセプトイメージ

子どもたちが伸び伸びと遊べる、どこか懐かしいまち、下知

みんなが考えた「幸せになる物語」

中心に明るく開けた大きな公園があり、そこでは高齢者から赤ちゃんまで集える場所(はだいで歩ける芝生、キャッチボールのできる広場)。その公園のそばには川が流れ、泳いだり、魚釣りも出来、また、母親たちが買物に出かける店がある。そして何世代も集えるガラスばりのコミュニティーがあり、世代を越えた絆の深い安心・安全な町
地域の人みんな知っている!(皆が名前呼びあう)、お話したことがある、遊んだことがある! 地域が家族みたい

広い場所で制約なしに遊べる場所

水遊びと舟遊びができる水上公園

昭和村テーマパーク(運営企画:住民)。現在・過去・未来

学校、地域、商店、畑などで、ものづくりを体験(畑仕事、おつかい、ロープの結び方、火を起こす、仕事体験、花づくりなど)

運河と牧場が近辺に広がる“おいしんぼ、都市。取れたての魚、新鮮なお肉いっぱい



- 「幸せになる物語」を実現するため、引き続き検討を行います
- より多くの地域住民の参加を募り、合意形成をはかります
- 個別計画(命を守る、命をつなぐ、生活を立ち上げる)の策定を進めます
- 自分たちが作った事前復興計画として、魂(意欲)の入った仏(計画)とします